

(様式3-1)

平成28年1月21日

## 事業経過報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

都道府県教育委員会等名 徳島県教育委員会  
 所在地 徳島県徳島市万代町1丁目1番地  
 代表者職氏名 教育長 佐野 義行

平成27年度英語教育強化地域拠点事業における事業経過報告書を提出します。

## 1. 事業の実施期間

委託を受けた日 ～ 平成28年3月31日

## 2. 強化地域拠点の学校名 (学校数が多い場合は欄を追加すること)

|      |                      |      |           |
|------|----------------------|------|-----------|
| ふりがな | とくしまけんりつあわにしこうとうがっこう | ふりがな | きたいけ きよたけ |
| 学校名  | 徳島県立阿波西高等学校          | 校長名  | 北池 清剛     |
| ふりがな | あわしりつあわちゅうがっこう       | ふりがな | しおた しょうじ  |
| 学校名  | 阿波市立阿波中学校            | 校長名  | 塩田 昭治     |
| ふりがな | あわしりつひさかつしょうがっこう     | ふりがな | やすはら たけし  |
| 学校名  | 阿波市立久勝小学校            | 校長名  | 安原 剛      |
| ふりがな | あわしりついさわしょうがっこう      | ふりがな | ほそい まこと   |
| 学校名  | 阿波市立伊沢小学校            | 校長名  | 細井 誠      |
| ふりがな | あわしりつはやししょうがっこう      | ふりがな | ふじもと いさお  |
| 学校名  | 阿波市立林小学校             | 校長名  | 藤本 功男     |

## 1. 研究内容

## (1) 研究開発課題

豊かなコミュニケーション能力を育むため、小中高で連携のとれた教育環境を整え、高校までを見通した教育課程や指導方法、評価方法の研究開発を行う。

## (2) 研究の概要

小中高の教職員が協働し、これまで阿波市が培ってきた小学校英語活動の手法やカリキュラムを土台にして、地域の子供たちが将来グローバル社会の中にあっても、自らの未来を自らの力で切り拓いていけるような、言語運用能力・コミュニケーション能力を育成する。

小学校では、初歩的な英語運用能力・コミュニケーション能力を育てるために第1学年から英語活動を行い、第5学年からは「読むこと」「書くこと」を含めた教科型の授業を行う。中学校は、身近な事柄を中心に英語でコミュニケーションを図ることができる能力を養うために、小学校で身に付けた能力の上に立って、内容に踏み込んだ言語活動を取り入れた授業を行うなど、指導方法や授業内容の研究開発を行う。高等学校では中学校で身に付けた能力の上に立って、英語を通じて情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養うため、言語活動の高度化などの指導方法の研究開発を行う。

### (3) 現状の分析と仮説等

#### ①現状の分析と研究の目的

阿波市では、「国際社会の中で活躍できる人材を育成するために、子供たちに将来的に『使える英語』を身に付けさせることが必要であり、言葉を学ぶにはできるだけ早い段階が効果的」との考えから、平成18年に、市の施策の一つとして、小学校での英語活動を開始した。学校裁量の時間を使い、小学校1年生から6年生まで週1時間の英語活動を実施し、今年で10年目となる。現在では、交流学习や体験活動を取り入れたカリキュラムや教材も整い、担任と阿波市英語講師（外部人材）による充実した英語活動が行われている。児童の英語活動に対する関心も高く、阿波市全体では、94%の児童が英語活動を「とても楽しい」「まあまあ楽しい」と答えている。また、89%の児童が英語活動に進んで参加しており、92%の児童がもっと英語で話したり聞いたりできるようになりたいと答えている。（平成25年度小学校英語活動に関するアンケートより）保護者に行ったアンケートでも、阿波市が実施する小学校英語活動の取組について、支持する声が高く、好印象を持っていただいている。小中連携の取組としては、連携協議会、授業見学会をはじめ、中学校1年生の英語科の授業に阿波市英語講師がT2として参加し、小学校での学びをつなぐ工夫を行うなど、中学校への段差の少ない接続について研究している。児童生徒は全般に英語の音やリズムに慣れ親しんでおり、初歩的な英語の質問に対しては理解しよう、答えようとする姿勢が育っている。中学生になっても、小学校で培われた素地により、間違いを恐れずに話そうとする態度、積極的に発表しようとする姿が見られている。

一方、友達とかかわったり、外国に対して学んだりすることへの積極性が見られる反面、「自分のことを表現すること」については消極的な面が見られる。高学年になるにしたがって、興味関心の対象も変化し、歌やチャンツ中心の英語活動よりも、知的好奇心をくすぐるような教材や、達成目標があり、課題をグループで解決するような内容を好むようになった。文字に関しても、「書いてみたい。」「読めるようになりたい。」という声が、学びが高まってきた高学年の約75%の児童から聞かれるようになった。

中学校では、4技能のうちでも「書くこと」の指導方法が長年の課題となっている。小学校で英語を話したり、聞いたりすることに慣れ親しんできた生徒たちであるが、「書くこと」に慣れるには、長い時間を必要とする。しかし、文字を習って間もなくから、教科書の単語や文法、英語の表現など、たくさん「書くこと」が増える。そのような中学校の授業を、難しく感じる生徒も少なくない。だが、昨年12月に中学校1年生に行ったアンケートを見ると、「書くこと」をやってみたいと答えた生徒数は、「話すこと」「聞くこと」「読むこと」と

ほとんど変わらない結果だった。難しさは感じているものの、英語を書きたいという思いは高いことがわかっている。

また、阿波市と阿波西高等学校は連携型中高一貫教育を実施しており、教員交流を通しての生徒理解や授業理解をはじめ、様々な連携に取り組んでいる。

以上の現状から、今後ますます広がるグローバル化社会の中で、未来を切り拓いていく力の一つとして必要となってくる英語力と、豊かなコミュニケーション能力を阿波市の子供たちに育成するために、これまで培ってきた阿波市小学校英語活動の手法やカリキュラムを土台にしながら、人と関わる力と合わせて、自己を表現する力も身に付けさせたい。また、「英語は楽しい。」と感じているその思いと素地を、中学校、高校へとうまくつなげて伸ばしていきたい。

そこで、小学校1年生から英語活動を行い英語の音やリズムに慣れ親しませ、5、6年生では教科型の授業を行い、中学校でつまずきの多い「読むこと」「書くこと」にも慣れ親しませながら、「聞くこと」「話すこと」と合わせて、中高へとつながる、初歩的な英語運用能力を養う指導方法を研究開発する。そして、小学校で培った初歩的な言語運用能力を踏まえ、中学校では、身近な事柄を中心に英語でコミュニケーションを図ることができる能力を養うため、内容に踏み込んだ言語活動を取り入れた授業を行うなど、指導方法や授業内容を研究開発する。高等学校では中学校で身に付けた能力の上に立って、英語を通じて情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養うため、言語活動の高度化など指導方法を研究開発する。

## ②研究仮説

小学校第1学年から、英語を用いてコミュニケーションをする楽しさを体験する英語活動の授業を行うことにより、コミュニケーション能力の素地が養われるであろう。そして、第5学年からは「読むこと」「書くこと」の指導を取り入れた教科としての英語の授業を行うことにより、小学校段階で初歩的な英語運用能力を養うことができるであろう。また中学校では小学校で培われた能力の上に立って、内容に踏み込んだ言語活動等を行うことにより、身近な事柄を中心に英語でコミュニケーションを図ることができる能力を養うことができるであろう。高等学校では中学校で身に付けた能力の上に立って、言語活動の高度化など指導方法の研究開発を行うことにより、英語を通じて情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養うことができるであろう。

小中高で連携のとれた指導方法、評価方法を議論し、高校までを見通した教育課程を研究することで、グローバル化に対応できる豊かなコミュニケーション能力の育成が図れるであろう。

## ③研究成果の評価方法

定期的に各委員会を開き、研究の進行状況について共通理解を図り、課題や改善点を出し合い、協議しながら、随時研究の方向性を必要に合わせ修正していく。また、運営指導委員会、阿波市英語活動・英語教育推進委員会で研究の推進状況を報告し、取組の成果を周知するとともに、指導・助言を受ける。

小学校では、CAN-DO リストによる学習到達目標の達成状況を、毎時間の行動観察、写真、ビデオ等による記録、振り返りシート、児童英検などの外部テスト、児童へのアンケート調査等で評価し、改善につなげる。

中学校では、「CAN-DO リスト」による学習到達目標の達成状況を、毎時間の行動観察、写真、

ビデオ等による記録，生徒の自己評価シートやアンケート調査，スピーキングテスト，校内テスト，外部テスト等で評価し，改善につなげる。

高等学校では，言語活動の高度化などの授業実践等について，授業記録や「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標の達成度といった視点から実践を評価，改善へつなげていく。

教員の意識向上についても，各種研究会，研修会後の感想，英語活動・英語教育に関するアンケート等を行い，研究の推進，改善に生かす。

(4) 研究開発型 ※平成27年度新規採択件については，平成26年度は斜線を引くこと。

|                | 開始学年及び週当たり授業時数コマ |                |                |                |
|----------------|------------------|----------------|----------------|----------------|
|                | 第一年次(H26)        | 第二年次(H27)      | 第三年次(H28)      | 第四年次(H29)      |
| ①小学校<br>外国語活動型 | 第 1 学年<br>1 コマ   | 第 1 学年<br>1 コマ | 第 1 学年<br>1 コマ | 第 1 学年<br>1 コマ |
| ②小学校<br>教科型    | 第 学年<br>コマ       | 第 5 学年<br>2 コマ | 第 5 学年<br>2 コマ | 第 5 学年<br>3 コマ |

(5) 研究計画 ※平成27年度新規採択件については，第一年次から第三年次まで記載すること。

第一年次～第四年次，校種別

<小学校>

第一年次

「第二年次からの小学校第5・6学年における英語科の授業（週2コマ）の実施に向けての研究及び準備を行う。」

○運営指導委員会の開催（年間3回実施）

・研究の推進についての協議，指導助言等

○中学校区英語推進委員会の設置（月1回）

・情報交換，研究の方向性についての修正・共通理解，研究の進捗状況についての報告，今後の計画等についての協議等

○阿波市英語活動・英語教育推進委員会の開催（年間2回実施）

・阿波市全域における英語教育の推進

○小中連携の推進（小中をつなぐ4つの柱）

・実態調査（児童英検，英語能力テスト「英語クイズ」実施）

・児童生徒と教員をつなぐ取組（「阿波市小学校英語活動実践の手引」配布，児童生徒アンケート結果の活用等）

・小中教員をつなぐ取組（小教研，中教研への参加，校区内授業公開・見学会，研修会）

・児童生徒をつなぐ取組（ビデオレターでの交流等）

○小中9年間を見通したカリキュラム・指導方法・指導内容等についての研究

・小学校第1学年から第4学年までの英語活動の目標，評価

・小学校第5・6学年の英語科の目標，評価

・現在の阿波市小学校英語活動のカリキュラムの修正及び Hi, friends! を活用したカリキュラム等についての研究

- ・小学校における指導方法（阿波市英語講師，ALT の効果的な活用等）についての研究
- ・小学校第 5・6 学年の英語科の研究・授業（試行）実践
- 教員の指導力向上のための研修の実施
  - ・研究推進に向けての研修計画作成
  - ・外部講師を招いての講演会やワークショップの実施
  - ・教員の英語力向上を図る研修の実施
  - ・研究授業及び授業研究会の実施
- 先進地域・先進校・全国大会への視察・参加
- 校内体制の構築，校内環境整備に関する計画・実施
- 保護者・地域への啓発
- 研究の成果・課題の検証と次年度の計画

## 第二年次

「小学校第 5・6 学年における英語科の授業の在り方について実践を基に検証を行い，第三年次における英語科の授業（週 2 コマ）の改善につなげる。また英語科の授業につながる小学校 1～4 学年における外国語活動の在り方について実践をもとに検証を行い，第三年次における外国語活動の授業の改善につなげる。」

- 運営指導委員会の開催（年間 3 回実施）
  - ・研究の推進についての協議，指導助言等
- 中学校区英語推進委員会（月 1 回）
  - ・情報交換，研究の方向性についての修正・共通理解，研究の進捗状況についての報告，今後の計画等についての協議
- 阿波市英語活動・英語教育推進委員会の開催（年間 2 回実施）
  - ・阿波市全域における英語教育の推進
- 小中連携の推進（小中をつなぐ 4 つの柱）
  - ・実態調査（児童英検，英語能力テスト「英語クイズ」実施）
  - ・児童生徒と教員をつなぐ取組（「阿波市小学校英語活動実践記録」配布，児童生徒アンケート結果の活用等，中学校教員の小 6 授業参加）
  - ・小中教員をつなぐ取組（小教研，中教研への参加，校区内授業公開・見学会，研修会等）
  - ・児童生徒をつなぐ取組（ビデオレターでの交流等）
- 小中 9 年間及び高等学校への接続を見通したカリキュラム・指導方法・指導内容等についての研究・実践
  - ・小学校第 1 学年から第 4 学年までの英語活動の目標，評価についての研究・実践
  - ・小学校第 5・6 学年英語科の目標，年間指導計画及び活動内容の研究・実践
  - ・阿波市小学校英語活動のカリキュラム，Hi, friends! を活用したカリキュラム等についての研究・実践
  - ・文部科学省による小学校英語の教科化の先行実施のための教材の活用についての研究・実践
  - ・小学校における指導方法（阿波市英語講師，ALT の効果的な活用等）についての研究・実践
  - ・小学校第 5・6 学年の英語科の研究・授業実践
- 新教育課程，カリキュラムの実施と検証，改善

- ・小学校第5・6学年は2時間の英語科を実施
- 教員の指導力向上のための研修の実施
  - ・研究推進に向けての研修計画作成
  - ・英語教育推進リーダー中央研修受講者による研修の実施
  - ・外部講師を招いての講演会やワークショップの実施
  - ・教員の英語力向上を図る研修の実施
  - ・研究授業及び授業研究会の実施
- 先進地域・先進校・全国大会への視察・参加
- 特別な教育課程による英語教育実施後の児童，教員，保護者の意識調査の実施と分析
- 校内体制の構築，校内環境整備に関する計画・実施
- 保護者・地域への啓発（次年度へ向けての環境整備）
- 研究の成果・課題の検証と次年度の計画

### 第三年次

「小学校第5・6学年における英語科の授業の在り方について実践を基に検証を行い，第四年次における英語科の授業（週3コマ）の改善につなげる。また英語科の授業につながる小学校1～4学年における外国語活動の在り方について実践を基に検証を行い，第三年次における外国語活動の授業の改善につなげる。」

- 運営指導委員会の開催（年間3回実施）
  - ・研究の推進についての協議，指導助言等
  - ・中学校区英語推進委員会（月1回）
  - ・情報交換，研究の方向性についての修正・共通理解，研究の進捗状況についての報告，今後の計画等についての協議
- 阿波市英語活動・英語教育推進委員会の開催（年間2回実施）
  - ・阿波市全域における英語教育の推進
- 小中連携の推進（小中をつなぐ4つの柱）
  - ・実態調査（児童英検，英語能力テスト「英語でクイズ」実施）
  - ・児童生徒と教員をつなぐ取組（「阿波市小学校英語活動実践記録」配布，児童生徒アンケート結果の活用等，中学校教員の小6授業参加）
  - ・小中教員をつなぐ取組（小教研，中教研への参加，校区内授業公開・見学会，研修会）
  - ・児童生徒をつなぐ取組（ビデオレターでの交流等）
- 小中9年間を見通したカリキュラム・指導方法・指導内容等についての実践・検証・改善
  - ・小学校第1学年から第4学年までの英語活動の目標，評価についての実践・検証・改善
  - ・小学校第5・6学年の英語科の目標，評価についての実践・検証・まとめ
  - ・阿波市小学校英語活動のカリキュラム，Hi, friends!を活用したカリキュラム等についての実践・検証・改善
  - ・文部科学省による小学校英語の教科化の先行実施のための教材の活用についての実践・検証
  - ・小学校における指導方法（阿波市英語講師，ALTの効果的な活用等）についての実践・検証・改善
  - ・小学校第5・6学年の英語科の授業実践・検証・改善

- 新教育課程，カリキュラムの実施と検証，改善
  - ・小学校第5・6学年は2時間の英語科を実施し，検証・改善
- 教員の指導力向上のための研修の実施
  - ・英語教育推進リーダー中央研修受講者による研修の実施
  - ・外部講師を招いての講演会やワークショップの実施
  - ・教員の英語力向上を図る研修の実施
  - ・研究授業及び授業研究会の実施
- 先進地域への視察
- 特別な教育課程による英語教育実施後の児童，教員，保護者の意識調査の実施と分析
- 校内体制の構築，校内環境整備の実施
- 保護者・地域への啓発（次年度へ向けての環境整備）
- 研究の成果・課題の検証と次年度の計画

#### 第四年次

「小学校第5・6学年における英語科の授業の在り方について実践を基に検証を行い，まとめる。また英語科の授業につながる小学校1～4学年における外国語活動の授業の在り方について実践を基に検証を行い，まとめる。」

- 運営指導委員会の開催（年間3回実施）
  - ・研究の推進及びまとめについての協議，指導助言等
  - ・中学校区英語推進委員会（月1回）
  - ・情報交換，研究の方向性についての修正・共通理解，研究の進捗状況についての報告，今後の計画等についての協議
- 阿波市英語活動・英語教育推進委員会の開催（年間2回実施）
  - ・阿波市全域における英語教育の推進
- 小中連携の推進（小中をつなぐ4つの柱）
  - ・実態調査（児童英検，英語能力テスト「英語でクイズ」実施）
  - ・児童生徒と教員をつなぐ取組（「阿波市小学校英語活動実践記録」配布，児童生徒アンケート結果の活用等，中学校教員の小6授業参加）
  - ・小中教員をつなぐ取組（小教研，中教研への参加，校区内授業公開・見学会，研修会）
  - ・児童生徒をつなぐ取組（ビデオレターでの交流等）
- 小中9年間を見通したカリキュラム・指導方法・指導内容等についての実践・検証・改善
  - ・小学校第1学年から第4学年までの英語活動の目標，評価についての実践・検証・改善
  - ・小学校第5・6学年の英語科の目標，評価についての実践・検証・まとめ
  - ・阿波市小学校英語活動のカリキュラム，Hi, friends!を活用したカリキュラム等についての実践・検証・改善
  - ・文部科学省による小学校英語の教科化の先行実施のための教材の活用についての実践・検証
  - ・小学校における指導方法（阿波市英語講師，ALTの効果的な活用等）についての実践・検証・改善
  - ・小学校第5・6学年の英語科の授業実践・検証・改善
- 新教育課程，カリキュラムの実施と検証，改善

- ・小学校第5・6学年は2時間の英語科を実施し、検証・改善
- 教員の指導力向上のための研修の実施
  - ・英語教育推進リーダー中央研修受講者による研修の実施
  - ・外部講師を招いての講演会やワークショップの実施
  - ・教員の英語力向上を図る研修の実施
  - ・研究授業及び授業研究会の実施
- 先進地域への視察
- 特別な教育課程による英語教育実施後の児童、教員、保護者の意識調査の実施と分析
- 校内体制の構築、校内環境整備の実施のまとめ
- 保護者・地域への啓発
- 研究の成果・課題のまとめ

<中学校>

### 第一年次

「小学校英語の教科化を見据え、授業の充実を図るとともに、身近な事柄を中心にコミュニケーションを図ることができる能力を養う授業の実践及び準備を行う。」

- 運営指導委員会の設置（年間3回実施）
  - ・研究の推進についての協議、指導助言等
- 中学校区英語推進委員会（月1回）
  - ・情報交換、研究の方向性についての共通理解、研究の進捗状況についての報告、今後の計画等について協議
- 阿波市英語活動・英語教育推進委員会の開催（年間2回実施）
  - ・阿波市全域における英語教育の推進
- 小中連携の推進（小中をつなぐ4つの柱）
  - ・事態調査（英語能力判定テスト、英語能力テスト「英語でクイズ」実施）
  - ・児童生徒と教員をつなぐ取組（「阿波市小学校英語活動実践の記録」配布、情報交換、児童生徒アンケート結果の活用等、中学校教員の小6授業参加）
  - ・小中教員をつなぐ取組（小教研、中教研への参加、校区内授業公開・見学会、研修会等）
  - ・児童生徒をつなぐ取組（ビデオレターでの交流等）
- 中高連携の推進
  - ・研究授業・授業研究会への参加、中高の英語教員による乗り入れ授業の実施等を通しての中高連携の推進
- 小中9年間を見通したカリキュラム・指導方法・指導内容等についての研究
  - ・小学校第1学年から第4学年までの英語活動の目標、評価
  - ・小学校第5・6学年の英語科の目標、評価
  - ・現在の阿波市小学校英語活動カリキュラムの修正及びHi, friends!を活用したカリキュラム等についての研究
  - ・小学校における指導方法（阿波市英語講師、ALTの効果的な活用等）についての研究
  - ・小学校第5・6学年の英語科の教材等の準備、授業（試行）実践
- 小学校における英語科の成果を踏まえた中学校英語科の目標と指導内容、評価等についての

研究・指導方法の改善・充実, 創意ある指導内容についての研究

- ・阿波市英語講師との連携, ALT の活用等についての研究
- 教員の指導力向上のための研修の実施
  - ・研究授業及び授業研究会の実施
  - ・研究推進に向けての研修計画作成
  - ・外部講師を招いての講演会やワークショップの実施
- 先進地域・先進校・全国大会への視察・参加
- 校内体制の構築, 校内環境整備に関する計画・実施
- 保護者・地域への啓発 (次年度へ向けての環境整備)
- 研究の成果・課題の検証と次年度の計画

## 第二年次

「小学校英語の教科化を見据え, 内容に踏み込んだ言語活動を重視した授業を行う等, 身近な事柄を中心にコミュニケーションを図ることができる能力を養う授業の実践及び改善を行う。」

- 運営指導委員会の開催 (年間3回実施)
  - ・研究の推進についての協議, 指導助言等
- 中学校区英語推進委員会 (月1回)
  - ・情報交換, 研究の方向性についての共通理解, 修正, 研究の進捗状況についての報告, 今後の計画等について協議
- 阿波市英語活動・英語教育推進委員会の開催 (年間2回実施)
  - ・阿波市全域における英語教育の推進
- 小中連携の推進 (小中をつなぐ4つの柱)
  - ・実態調査 (英語能力判定テスト, 英語能力テスト「英語でクイズ」実施)
  - ・児童生徒と教員をつなぐ取組 (「阿波市小学校英語活動実践の記録」配布, 情報交換, 児童生徒アンケート結果の活用, 中学校教員の小6授業参加等)
  - ・小中教員をつなぐ取組 (小教研, 中教研への参加, 校区内授業公開・見学会, 研修会等)
  - ・児童生徒をつなぐ取組 (ビデオレターでの交流等)
- 中高連携の推進
  - ・研究授業・授業研究会への参加, 中高の英語教員による乗り入れ授業の実施等を通しての中高連携の推進
- 小中9年間を見通したカリキュラム・指導方法・指導内容等についての研究・実施
  - ・小学校第1学年から第4学年までの英語活動の目標, 評価についての研究・実践
  - ・小学校第5・6学年の英語科の目標, 評価についての研究・実践
  - ・阿波市小学校英語活動のカリキュラム, Hi, friends!, を活用したカリキュラム等についての研究・実践
  - ・文部科学省による小学校英語の教科化の先行実施のための教材の活用についての研究・実践
  - ・小学校における指導方法 (阿波市英語講師, ALT の効果的な活用等) についての研究・実践
  - ・小学校第5・6学年の英語科の教材等の作成
- 小学校における英語科の成果を踏まえた中学校英語科の目標と指導内容, 評価等についての

## 研究・実践

- ・指導方法の改善・充実, 創意ある指導内容についての研究・実践
- ・阿波市英語講師との連携, ALT の活用等についての研究・実践
- 教員の指導力向上のための研修の実施
  - ・研究授業及び授業研究会の実施
  - ・研究推進に向けての研修計画作成
  - ・外部講師を招いての講演会やワークショップの実施
- 先進地域・先進校・全国大会への視察・参加
- 特別な教育課程による英語教育実施後の生徒, 教員, 保護者の意識調査の実施と分析
- 校内体制の構築, 校内環境整備に関する計画・実施
- 保護者・地域への啓発 (次年度へ向けての環境整備)
- 研究の成果・課題の検証と次年度の計画

## 第三年次

「小学校で教科として英語の授業を受けてきた中学1年生に対して, 小学校とのつながりを踏まえた授業実践及び検証を行うとともに, 内容に踏み込んだ言語活動を重視した授業を行う等, 身近な事柄を中心にコミュニケーションを図ることができる能力を養う授業の実践及び検証を行う。」

- 運営指導委員会の開催 (年間3回実施)
  - ・研究の推進についての協議, 指導助言等
- 中学校区英語推進委員会 (月1回)
  - ・情報交換, 研究の方向性についての共通理解, 修正, 研究の進捗状況についての報告, 今後の計画等について協議
- 阿波市英語活動・英語教育推進委員会の開催 (年間2回実施)
  - ・阿波市全域における英語教育の推進
- 小中連携の推進 (小中をつなぐ4つの柱)
  - ・実態調査 (英語能力判定テスト, 英語能力テスト「英語でクイズ」実施)
  - ・児童生徒と教員をつなぐ取組 (「阿波市小学校英語活動実践記録」配布, 情報交換, 児童生徒アンケート結果の活用。中学校教員の小6授業参加等)
  - ・小中教員をつなぐ取組 (小教研, 中教研への参加, 校区内授業公開・見学会, 研修会, 英語活動通信等)
  - ・児童生徒をつなぐ取組 (ビデオレターでの交流等)
- 中高連携の推進
  - ・研究授業・授業研究会への参加, 中高の英語教員による乗り入れ授業の実施等を通しての中高連携の推進
- 小中9年間を見通したカリキュラム・指導方法・指導内容等についての実践・検証・改善
  - ・小学校第1学年から第4学年までの英語活動の目標, 評価についての実践・検証・改善
  - ・小学校第5・6学年の英語科の目標, 評価についての実践・検証・まとめ
  - ・阿波市小学校英語活動のカリキュラム, Hi, friends! を活用したカリキュラム等についての実践・検証・改善

- ・文部科学省による小学校英語の教科化の先行実施のための教材の活用についての実践・検証
- ・小学校における指導方法（阿波市英語講師，ALT の効果的な活用等）についての実践・検証・改善
- ・小学校第5・6学年の英語科の教材等の作成
- 小学校における英語科の成果を踏まえた中学校英語科の目標と指導内容，評価等についての実践・検証・改善
- ・指導方法の改善・充実，創意ある指導内容についての実践・検証・改善
- ・阿波市英語講師との連携，ALT の活用等についての実践・検証・改善
- 教員の指導力向上のための研修の実施
- ・研究授業及び授業研究会
- ・外部講師を招いての講演会やワークショップの実施
- 先進地域・先進校・全国大会への視察・参加
- 特別な教育課程による英語教育実施後の生徒，教員，保護者の意識調査の実施と分析
- 校内体制の構築，校内環境整備の実施
- 保護者・地域への啓発（次年度へ向けての環境整備）
- 研究の成果・課題の検証と次年度の計画

#### 第四年次

「小学校で教科として英語の授業を受けてきた中学1年生に対して，小学校とのつながりを踏まえた授業実践及び検証を行うとともに，内容に踏み込んだ言語活動を重視した授業を行う等，身近な事柄を中心にコミュニケーションを図ることができる能力を養う授業の実践及びまとめを行う。」

- 運営指導委員会の開催（年間3回実施）
  - ・研究の推進についての協議，指導助言等
- 中学校区英語推進委員会（月1回）
  - ・情報交換，研究についての報告・まとめ
- 阿波市英語活動・英語教育推進委員会の開催（年間2回実施）
  - ・阿波市全域における英語教育の推進
- 小中連携の推進（小中をつなぐ4つの柱）
  - ・実態調査（英語能力判定テスト，英語能力テスト「英語でクイズ」実施）
  - ・児童生徒と教員をつなぐ取組（「阿波市小学校英語活動実践記録」配布，情報交換，児童生徒アンケート結果の活用，中学校教員の小6授業参加等）
  - ・小中教員をつなぐ取組（小教研，中教研への参加，校区内授業公開・見学会，研修会，英語活動通信等）
  - ・児童生徒をつなぐ取組（ビデオレターでの交流等）
- 中高連携の推進
  - ・研究授業・授業研究会への参加，中高の英語教員による乗り入れ授業の実施等を通しての中高連携の推進

- 小中9年間を見通したカリキュラム・指導方法・指導内容等についてのまとめ
  - ・小学校第1学年から第4学年までの英語活動の目標，評価についての検証・まとめ
  - ・小学校第5・6学年の英語科の目標，評価についての検証・まとめ
  - ・阿波市小学校英語活動のカリキュラム，Hi,friends!を活用したカリキュラム等についての検証・まとめ
  - ・文部科学省による小学校英語の教科化の先行実施のための教材の活用についての検証・まとめ
  - ・小学校における指導方法（阿波市英語講師，ALTの効果的な活用等）についての検証・まとめ
- 小学校における英語科の成果を踏まえた中学校英語科の目標と指導内容，評価等についてのまとめ
  - ・指導方法の改善・充実，創意ある指導内容についてのまとめ
  - ・阿波市英語講師との連携，ALTの活用等についてのまとめ
- 教員の指導力向上のための研修の実施
  - ・研究授業及び授業研究会
  - ・外部講師を招いての講演会やワークショップの実施
- 特別な教育課程による英語教育実施後の生徒，教員，保護者の意識調査の実施と分析
- 校内体制の構築，校内環境整備の実施
- 保護者・地域への啓発
- 研究の成果・課題のまとめ

<高等学校>

#### 第一年次

「中学校とのつながりを踏まえた授業実践を行うとともに，言語活動を高度化した授業を行う等，英語を通じて情報や考えなどを的確に表現したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う授業の実践及び準備を行う。」

- 運営指導委員会の開催（年間3回実施）
  - ・校種の枠を越えた情報交換
  - ・研究の推進についての協議，指導助言等
- 強化地域拠点事業研究会の開催
  - ・情報交換，研究についての協議
  - ・研究の方向性についての共通理解，有機的な連携，今後の計画等についての協議
- 授業及び評価についての研究
  - ・小学校及び中学校における学びを生かした授業改善，中学校から高等学校へのブリッジユニットの研究，言語活動の高度化の研究，効果的なパフォーマンステスト（スピーキングテスト・ライティングテスト）の研究，「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標の作成
- 阿波市における研究授業・授業研究会への参加
- 先進地域への視察
- 研究の成果・課題の検証と次年度の計画

## 二年次

「中学校とのつながりを踏まえた授業実践を行うとともに、言語活動を高度化した授業を行う等、英語を通じて情報や考えなどを的確に表現したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う授業の実践及び改善を行う。」

○運営指導委員会の開催（年間3回実施）

- ・校種の枠を越えた情報交換
- ・研究の推進についての協議, 指導助言等

○強化地域拠点事業研究会の開催

- ・情報交換, 研究についての協議
- ・第一年次の成果と課題を踏まえての研究の方向修正, 情報交換, 有機的な連携, 今後の計画等についての協議

○授業及び評価についての研究

- ・小学校及び中学校における学びを生かした授業改善, 中学校から高等学校へのブリッジユニットの実施, 言語活動の高度化の研究・実践, 効果的なパフォーマンステスト（スピーキングテスト・ライティングテスト）の研究・実践, 「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標の検証

○阿波市における研究授業・授業研究会への参加

○有機的な連携（中高）についての研究・実践

○先進地域への視察

○研究の成果・課題の検証と次年度の計画

## 第三年次

「中学校とのつながりを踏まえた授業実践を行うとともに、言語活動を高度化した授業を行う等、英語を通じて情報や考えなどを的確に表現したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う授業の実践及び改善を行う。」

○運営指導委員会の開催（年間3回実施）

- ・校種の枠を越えた情報交換
- ・研究の推進についての協議, 指導助言等

○強化地域拠点事業研究会の開催

- ・情報交換, 研究についての協議
- ・第二年次の成果と課題を踏まえての研究の方向修正, 情報交換, 有機的な連携, 今後の計画等についての協議

○授業及び評価についての研究

- ・小学校及び中学校における学びを生かした授業改善, 中学校から高等学校へのブリッジユニットの検証, 言語活動の高度化の実践・検証, 効果的なパフォーマンステスト（スピーキングテスト・ライティングテスト）の実践・検証, 「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標の公表・検証

○阿波市における研究授業・授業研究会への参加

○有機的な連携（中高）についての実践・検証

○公開授業の実施

## ○研究の成果・課題の検証と次年度の計画

## 第四年次

「中学校とのつながりを踏まえた授業実践を行うとともに、言語活動を高度化した授業を行う等、英語を通じて情報や考えなどを的確に表現したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う授業の実践及びまとめを行う。」

## ○運営指導委員会の開催（年間3回実施）

- ・校種の枠を越えた情報交換
- ・研究の推進についての協議，指導助言等

## ○強化地域拠点事業研究会の開催

- ・情報交換，研究についての協議
- ・第三年次の成果と課題を踏まえての研究の方向修正，情報交換，有機的な連携，阿波市としての今後の方針等についての協議

## ○阿波市における研究授業・授業研究会への参加

- ・小学校及び中学校における学びを生かした授業改善についてのまとめ，中学校から高等学校へのブリッジユニットについてのまとめ

## ○授業及び評価についての研究

- ・言語活動の高度化の実践・検証・まとめ，効果的なパフォーマンステスト（スピーキングテスト・ライティングテスト）の検証・まとめ，「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標の検証・まとめ

## ○公開授業の実施

## ○平成27年度の進捗状況

## &lt;小中学校&gt;

- ・外部講師によるスキルアップ研修を通して，知識や技能の向上を図ることができた。
- ・小学校教員を対象としたアンケート調査実施（4月と12月）し，意識の変化や課題を確認することができた。
- ・先進校視察を通して，様々な学校の取組状況を把握することができた。
- ・研究授業及び授業研究会を積極的実施し，互いの授業を見合うことでスキルの向上を感じることができた。
- ・指導案様式の改善及び指導案作成上の工夫について研修を進め，共通理解を持つことができた。
- ・英語教育推進リーダーによる研修を実施したことにより，拠点校区内の指導への意欲の向上や連

帯意識の高まりが見られた。

- ・外部講師による研修会や運営指導委員会において指導や助言をいただき，研究の見直しや修正ができた。
- ・中学校区英語推進委員会を定期的で開催し，情報交換や研究の方向性について話し合うことができ，英語教育計画や年間指導計画の修正についても確認することができた。
- ・文字を「書くこと」「読むこと」に関しては，指導計画及び指導目標に沿って計画的に進めて

おり、児童の学習意欲や文字への関心は高まっている。

(課題)

・各教員が T1 として、積極的に授業を進めようとする意識が明らかに強くなったが、それでもまだまだ個人差があり、改善の余地がある。各教員が自信を持って授業を行えるよう、更に研修を進める必要がある。

・授業時数を週 2 単位時間にしたことにより、授業準備等の時間も増加したので、指導者の負担が増加した。また、ほぼ毎日のモジュールでの英語指導は、準備に時間がかかりこちらも教員の負担が大きい。教材や指導案のデータ化・共有化等により、準備等に要する時間を削減したい。

・单元ごとに、児童の振り返りシートを活用し個々の児童の意識を把握しているが、授業の中で指導者が児童の実態を客観的に把握するのは難しいので、单元ゴールを意識したパフォーマンステスト等を実践することで、評価を客観的性と妥当性を備えたものにする工夫が必要である。

#### ア 小学校高学年の教科化に向けた取り組み

・高学年は、「外国語活動」から教科「外国語」として週 2 単位時間実施。3 小学校のうち 2 校は総合学習から 1 単位時間を充当、1 校は朝の時間(15 分 x 週 3 回)を充当し時数を確保している。また、中学年は、昨年度同様、週 1 コマの「外国語活動」を継続している。

- ・文字指導に関する学習到達目標及び指導計画作成と段階的取組
- ・小学 1～6 年の CAN-DO リスト形式による学習到達目標の修正
- ・内容のまとめりごとの目標及び評価規準の修正と評価方法の検討

新カリキュラム実施に伴う評価

(1) 指導者は单元毎に「児童の観点別見取りシート」を活用し児童の個別情報を記録。

(2) 通知表は各学校の判断に委ねた。その結果、3 校とも文章による評価を採用し、2 校は従来通り 3 観点について毎学期ごとに評価しているが、1 校は年度末に教科として 4 観点について評価予定。

(3) 指導要録については協議検討中。今年度中に来年度の方針を決定する予定。

外部試験による英語力の客観的把握と経年比較

小学 3～6 年、中学 1 年に情意面に関するアンケート調査と経年比較

#### イ 使用教材

(小学校)

1～4 年は自作教材、5、6 年は自作教材・『Hi, friends!』文部科学省作成配布補助教材・児童用テキスト・デジタル教材・音声 CD を併用。

1～6 年生の自作教材は、年開指導計画に基づいて、市版の教材(絵本・テキスト・デジタル教材・絵カード等)を活用している他、独自にデジタル教材やワークシートを開発。

(中学校)

『Sunshine1～3』(開隆堂)のテキストを中心に、QA-100 minibook(正進社)を帯活動で使用。

#### ウ 小中高校間の連携推進

- ・中学校英語教員による小学 6 年の定期的授業参加(目的: 中学校の授業改善)

・小学校英語講師による中学1年の定期的授業参加(目的: 生徒支援)

(6) 評価計画

※平成27年度新規採択件については、第一年次から第三年次まで記載すること。

第一年次～第四年次，校種別

各校種とも次のそれぞれの項目に関して，その内容や方法等について，評価を行う。

<小学校>

**第一年次**

○児童の意識及び学習の到達度について

- ・特別な教育課程実施前の事態を把握し，次年度の計画に生かす。
- ・毎時間の行動観察，児童生徒の振り返りシート，感想等の活用，ビデオ等の記録，児童英検，アンケート調査

○研究推進について

- ・定期的に，強化地域拠点事業研究会を開催。研究の計画，実施状況，問題点，改善点について協議しながら，研究の方向性を修正する。
- ・運営指導委員会，阿波市英語活動・英語教育推進委員会にて研究推進状況を報告。指導・助言を受ける。

○教員の指導力及び意識の向上について

- ・授業研究会の実施（年間3回）
- ・教職員の授業力向上のための研修会の実施（年間3回）
- ・先進校を視察し，内容についてまとめ教職員に広める。
- ・教員対象にアンケート等を実施，校内体制の構築，研修計画の作成等に生かす。

○保護者の意識について

- ・アンケート調査を実施。検証して，次年度の計画に生かす。

**第二年次**

○児童の意識及び学習の到達度について

- ・実態調査を通して明確になった課題に計画的に継続して取り組み，定期的に成果を見取る。
- ・単元ごとに評価シートを作成し，単元目標の到達状況を測定し，記録する。
- ・毎時間の行動観察，児童の振り返りシート，感想等の活用，ビデオ等の記録
- ・外部テストやアンケート調査等の結果を経年比較し，成果と課題を客観的に分析する。

○研究推進について

- ・定期的に中学校区英語推進委員会を開催。研究計画，実施状況，問題点，改善点等について協議しながら研究の方向性を確認・修正する。
- ・校内英語推進部会を校内組織に位置づけ，校内研修の強化充実を図る。
- ・運営指導委員会，中学校区英語推進委員会にて実践状況を報告。指導・助言を受ける。

○教員の指導力及び意識の向上について

- ・授業研究会の実施（各校年間2回ずつ）
- ・授業力向上の校内研修の実施（年間3回以上）
- ・先進校を視察し，内容についてまとめ教職員に広める。
- ・教員にアンケート調査を実施し，意識等の変容を客観的に測定する。
- ・取組の成果と課題を教員や児童への質問紙調査で検証し，どの小学校の特色が最も教育

成果を上げているか比較・分析する。

### 第三年次

前年度の実践を踏まえて第三年次の評価項目を立て、それぞれの分野で評価を行う。その成果・課題を検証。前年度と比較しながら、改善につなげる。

### 第四年次

前年度の実践を踏まえて第四年次の評価項目を立て、それぞれの分野で評価を行う。4年間のデータを集計・分析し、本研究開発のまとめを行う。

<中学校>

### 第一年次

○生徒の意識及び学習の到達度について

- ・特別な教育課程実施前の実態を把握し、次年度の計画に生かす。
- ・毎時間の行動観察、生徒の自己評価シート、感想等の活用、ビデオ等の記録、スピーキングテスト等のパフォーマンステスト、英検、アンケート調査

○研究推進について

- ・定期的に強化地域拠点事業研究会を開催。研究の計画、実施状況、問題点、改善点等について協議しながら、研究の方向性を修正する。
- ・運営指導委員会、阿波市英語活動・英語教育推進委員会にて研究推進状況を報告。指導・助言を受ける。

○教員の指導力及び意識の向上について

- ・授業研究会の実施（年間2回）
- ・教職員の授業力向上のための研修会の実施（年間3回）
- ・先進校を視察し、内容についてまとめ教職員に広める。
- ・教員対象にアンケート等を実施。校内体制、研修計画等に生かす。

○保護者の意識について

- ・アンケート調査を実施。検証して、次年度の計画に生かす。

### 第二年次

○生徒の意識及び学習の到達度について

- ・実態調査を通して明確になった課題に計画的に継続して取り組み、定期的に成果を見取る。
- ・单元ごとに評価シートを作成し、单元目標の到達状況を測定し、記録する。
- ・毎時間の行動観察、生徒の自己評価シート、感想等の活用、ビデオ等の記録、スピーキングテスト等のパフォーマンステスト
- ・外部テストやアンケート調査等の結果を経年比較し、成果と課題を客観的に分析する。

○研究推進について

- ・定期的に中学校区英語推進委員会を開催。研究の計画、実施状況、問題点、改善点等について協議しながら、研究の方向性を確認・修正する。
- ・英語教科部会を定期的に関き、校内研修の強化充実を図る。
- ・運営指導委員会、中学校区英語推進委員会にて研究推進状況を報告。指導・助言を受ける。

○教員の指導力及び意識の向上について

- ・授業研究会の実施（年間2回）
- ・授業力向上のための研修会の実施（年間2回以上）
- ・先進校を視察し内容についてまとめ、情報を共有する。
- ・教員にアンケート調査を実施し、意識等の変容を客観的に測定する。

### 第三年次

前年度の実践を踏まえて第三年次の評価項目を立て、それぞれの分野で評価を行う。その成果・課題を検証。前年度と比較しながら、改善につなげる。

### 第四年次

前年度の実践を踏まえて第四年次の評価項目を立て、それぞれの分野で評価を行う。4年間のデータを集計・分析し、本研究開発のまとめを行う。

## <高等学校>

### 第一年次

○授業及び評価について

- ・小学校及び中学校における学びを生かした授業改善，中学校から高等学校へのブリッジユニット，言語活動の高度化，効果的なパフォーマンステスト（スピーキングテスト・ライティングテスト），「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標

○中高の連携についての研究について

- ・有機的な中高連携

○教員の意識及び指導力の向上について

- ・先進校を視察し，内容についてまとめ情報を共有する。

### 第二年次

○授業及び評価について

- ・小学校及び中学校における学びを生かした授業改善，中学校から高等学校へのブリッジユニット，言語活動の高度化，効果的なパフォーマンステスト（スピーキングテスト・ライティングテスト），「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標

○中高の連携についての研究について

- ・有機的な中高連携

○教員の意識及び指導力の向上について

- ・先進校を視察し，内容についてまとめ教職員に広める。

### 第三年次

前年度の実践を踏まえて第三年次の評価項目を立て、それぞれの分野で評価を行う。その成果・課題を検証。前年度と比較しながら、改善につなげる。

## 第四年次

前年度の実践を踏まえて第四年次の評価項目を立て、それぞれの分野で評価を行う。4年間のデータを集計・分析し、本研究開発のまとめを行う。

○平成27年度の進捗状況

〈小中学校〉

### ア 小学校教員にアンケート調査実施（4月・12月）

（2015年4月調査結果の一例）

#### 授業での学級担任 2014 の発話割合

英語講師と学級担任の T T ……学級担任の 70% が 3 割未満の発話割合

英語講師, A L T と学級担任の T T ……学級担任の 80% が 3 割未満の発話割合

#### 教員の課題意識 2014（自由記述より抜粋）

- ・自分にスキルがないため自信がもてず、英語講師に頼ってしまう。
- ・英語を指導する自信がないことと、教材研究をする時間が十分持てないことで英語講師に任せてしまっていた。

（2015年12月調査結果の一例）

#### 授業での学級担任 2015 の発話割合

英語講師と学級担任の T T ……学級担任の約 57% が 4 割以上の発話割合

A L T と学級担任の T T ……学級担任の約 50% が 6 割以上の発話割合

#### 教員の課題意識 2015（自由記述より抜粋）

- ・以前に比べて授業で英語を話すことに抵抗を感じなくなった。
- ・はじめ（4月）は大変不安だったが、繰り返し指導するうちに少しずつスタイルが身についてきたように思う。これからはもっとクラスルーム・イングリッシュを増やしていきたい。
- ・研修などのおかげでクラスルーム・イングリッシュが定着してきたが、授業づくりを率先して行えていない。

### イ 児童生徒にアンケート調査実施。（12月）

\*2014年度末に実施した調査結果と経年比較予定。

#### 【2014年度末調査結果】

| 質問内容                                    | 小3  | 小4  | 小5  | 小6  | 中1  |
|---|-----|-----|-----|-----|-----|
| Q：英語の学習は好きですか。<br>「好き」「どちらかといえば好き」      | 87% | 86% | 73% | 62% | 69% |
| Q：先生が話す英語がわかりますか。<br>「わかる」「どちらかといえばわかる」 | 65% | 74% | 59% | 58% | 61% |

#### 【2015年12月調査結果】

| 質問内容                                 | 小3  | 小4  | 小5  | 小6  | 中1  |
|--------------------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| Q：英語の学習は楽しいですか。<br>「とても好き」「楽しい」      | 88% | 89% | 92% | 88% | 60% |
| Q：先生が話す英語がわかりますか。<br>「わかる」「なんとなくわかる」 | 77% | 71% | 81% | 93% | 73% |

昨年度末のアンケート調査結果では、小学校は学年が上がるにつれて児童の肯定的回答の割合が減少していたが、今年度の調査結果では、ほぼ同様の質問内容に対し、非常に高い割合で肯定的回答を得ることができた。特に今年度の小学6年を経年比較すると、昨年度より大幅に肯定的回答の割合が高くなっており、英語に対して自信を付けていることがうかがえる。授業で教員が「児童が英語を聞いてわかる工夫」を実践したことや、児童の実態に合わせて授業内容を工夫したことが児童の学習意欲改善につながったと考えられる。

#### ウ 児童生徒の英語能力を測る外部試験実施（12月）

小学5・6年・・・学校版児童英検 中学1～3年 英語能力判定テスト

\*2014年度の調査結果と経年比較予定。

#### エ 小学校高学年における教科「外国語」について

小学1～4年は高学年との接続に配慮した年間指導計画に基づいて単元学習を開始。小学5～6年は「読むこと」「書くこと」「聞くこと」「話すこと」の4技能を統合型の文字指導計画および到達目標を作成し、計画的に学習を開始。児童の負担にならないよう配慮しパフォーマンス評価等を試行的に実施し、3学期に評価方法や評価内容について検討予定。

（課題）

阿波市英語活動・英語教育推進委員会による小小、小中学校間の連携強化と、校内研究部会の研修の充実、研究授業の積極的実施など、教員がチームとして取り組める環境を整える必要がある。

#### <高等学校>

（成果）

○2月に授業研究会を行い、小中の先生方にも参加していただいた。生徒の実態に応じた評価の在り方について研究を深める機会を設けている。

（課題）

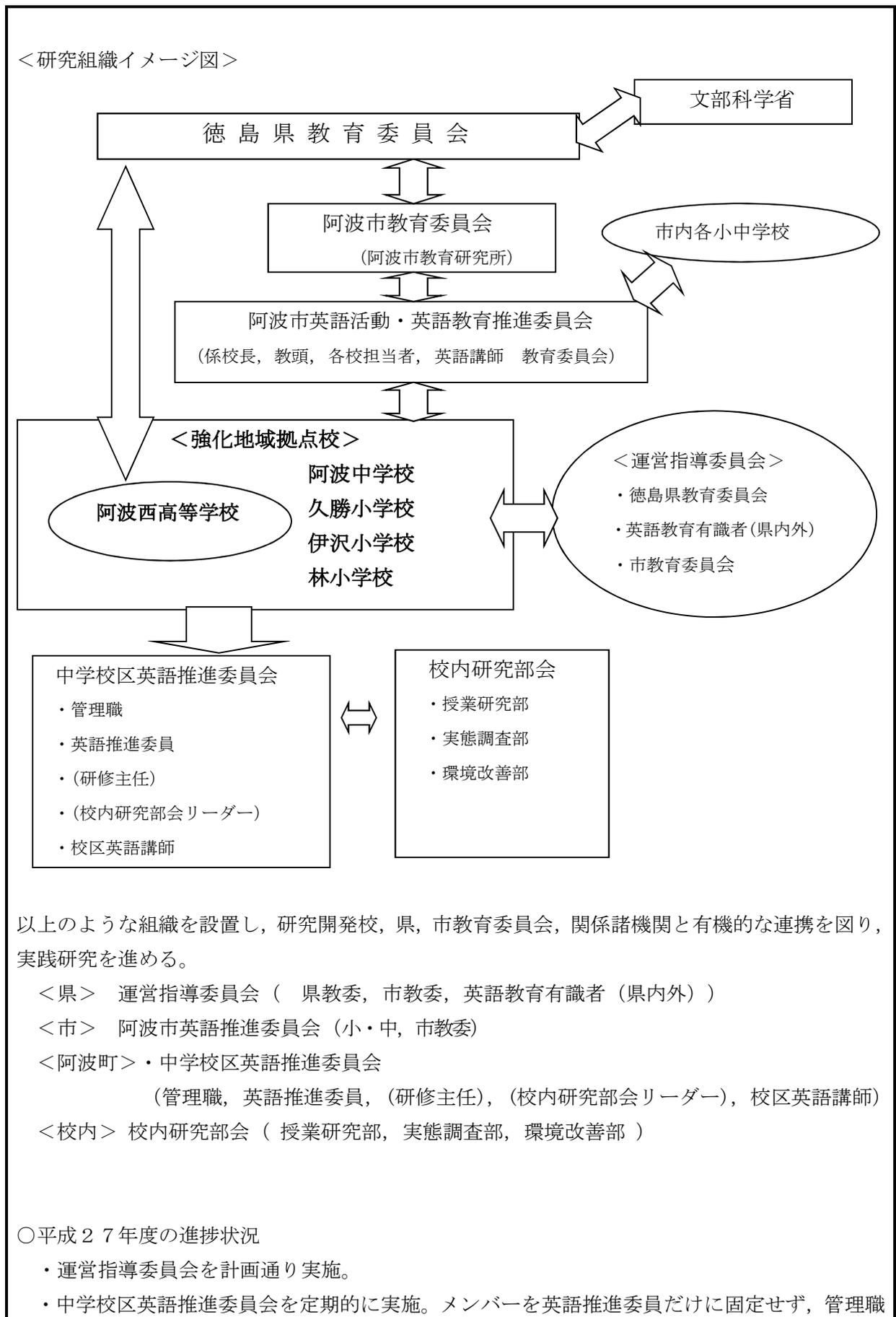
○毎回の学習内容の積み重ねに課題のある生徒も多く、よりよい評価の在り方について検討しなければならない。

○書くことに対して苦手意識を感じている生徒が多く、書くことについての効果的な指導がまだ十分には行えていない。

○英語による授業実践が不十分である。英語使用を増やす言語活動を充実させる必要がある。

## 4. 研究組織

## (1) 研究組織の概要



の常時参加及び研修主任や校内研究部会リーダー、英語講師等を弾力的にメンバーに加え、関わる人を増やした。

- ・小学校は校内研究部会（授業研究部，実態調査部，環境改善部）の3つの部会に分かれて研修を行った。
- ・研究の原案立案後，決定に至るプロセスをメンバーで再確認した。  
原案→各校で検討→英語推進委員会で協議→管理職会議で決定。
- ・強化地域拠点事業連携協議会を，中学校区英語推進委員会に一元化し，開催する会議のスリム化を図った。

（課題）

- ・中学校区英語推進委員会を定期的で開催したが，限られた時間の中で，各課題に対して十分な協議にならないことがあった。ポイントを絞って中身を充実させたい。
- ・中学校区英語推進委員会の協議内容が，これまでは小学校に関する内容に偏っていた。今後は小中学校の接続に関する内容についても協議を進めたい。
- ・校内研究部会を校内研修に計画的に位置づけるのが難しいので対策を話し合う必要がある。

## （2）運営指導委員会

### ①活動計画

#### ○活動計画

1. 研究主題，研究の内容，方法等について指導助言を行う。  
毎年度末には，事業の成果・課題について検証を行う。
2. 教員の指導力向上のための活動計画等についての助言を行う。  
（外部講師の調整・講演会や研修会の持ち方，指導案，カリキュラムの作成，評価，教材開発等について）
3. 授業研究会を通して指導方法の工夫改善への指導助言を行う。  
（英語講師との T・T，ALT との T・T，小学校学級担任単独による授業，小学校第1学年～第4学年における英語活動の授業，第5・6学年における英語科の授業，小学校の成果を踏まえた中学校の授業，創意工夫ある教材・ICT の効果的な活用方法等）
4. 英語講師，ALT の効果的な活用についての指導助言を行う。  
（それぞれの特性を生かした指導方法，授業における学級担任の役割等）
5. 児童生徒の興味・関心，目標達成状況の変容等について分析を行い，研究の改善，充実へ向けた指導助言を行う。
6. 小・中・高等学校教員の連携，児童生徒同士の連携の在り方について指導助言を行う。  
（異校種の教員による授業見学会，研究会への参加により，情報交換，意見交換の場の持ち方について）
7. 本研究の成果を広く周知するための支援を行う。（冊子作成，授業公開，研究発表等）

#### ○平成27年度の進捗状況・課題

（成果）

- ・年間3回の運営指導委員会，また各校における授業研究会において運営指導委員の大学の先生

を講師に招き，研究推進にあたって具体的な指導助言をいただくことができた。

- ・ALTの先生に任せきりにならずに，授業を進める姿勢が一年目よりも強いものになった。

(課題)

- ・校内研究部会等の運営・活用等に関して，組織的に研究推進を進める体制を構築することが十分にできなかったこともあり，計画的な研究開発に不十分な面があった。また，3小学校の実態が異なることもあり，足並みをそろえて研究に取り組むことが難しい面があった。

- ・運営指導委員会・教育委員会の指導助言

英語教育推進委員会が各学校の取組をリードするという形を確立すべきである。そのために組織として動けるための協力体制の整備が必要。各先生方が英語力がないことが1番困っているのであれば，先生方の英語力が伸びる研修を実行する。その上で授業研究会をもっと増やす。

「個人の努力に委ねる」状態から「先生方を育てる」組織へと発想を転換して，運営指導委員会や教育委員会がそれをサポートする。阿波市の特徴、良さを確認し，数値目標を示し，組織で，目標を達成する。その繰り返しを中学校へつなげる。

## 5. 年間事業計画

| 月  | 強化地域拠点の取組  | 運営指導委員会    |
|----|--|------------|
| 4月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○小中校長会で英語(外国語活動)小中連携計画説明</li> <li>○第1回阿波市英語活動・英語教育推進委員会</li> <li>○英語教育について小1，5～6年保護者に文書配布</li> <li>○アンケートによる意識調査(第1回)</li> </ul> (対象：小学校教員)                 |            |
| 5月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○研究開発実施報告書(1年次)を関係者に送付</li> <li>○平成27年度英語研修会の案内文書送付</li> <li>○平成27年度先進校視察研修計画</li> <li>○校内英語研究部会</li> <li>○外国語活動研究授業及び授業研究会(林小学校2年)</li> </ul> 指導助言：県教委指導主事 |            |
| 6月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○中学校区英語推進委員会</li> <li>○先進地域・先進校への視察(4名)</li> </ul> (香川県直島小学校)<br>広島県広島大学附属小学校，中学校<br>千葉県千葉大学教育学部附属小学校)  | 第1回運営指導委員会 |
| 7月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校研究授業及び授業研究会(伊沢小学校6年)</li> <li>○小学校研究授業及び授業研究会(伊沢小学校3年)</li> </ul> 指導助言：四国大学准教授  |            |
|    | ○小学校研究授業及び授業研究会(林小学校5年竹組)  |            |

|     |   |            |
|-----|---|------------|
|     | <p>指導助言：鳴門教育大学教授</p> <p>○第1回指導力向上研修（中学校教員対象）</p> <p>講師：美馬市立江原中学校教諭</p>  |            |
| 8月  | <p>○中学校区英語推進委員会</p> <p>○英語教育推進リーダー研修実習（3回11時間）</p> <p>○指導力向上研修（小学校教員対象）</p> <p>講師：昭和女子大学附属昭和小学校校長</p> <p>○伊沢小学校校内研修（モジュール指導について）</p> <p>講師：徳島市教育委員会研究員</p>  |            |
| 9月  | <p>○先進地域・先進校への視察（2名）</p> <p>金沢市教育委員会，金沢市立長田中学校・戸板小学校</p>  |            |
| 10月 | <p>○中学校区英語推進委員会</p> <p>○小学校研究授業及び授業研究会（久勝小学校6年）</p> <p>指導助言：四国大学准教授</p> <p>○小学校研究授業及び授業研究会（伊沢小学校2年）</p> <p>指導助言：広島大学准教授</p>   |            |
| 11月 | <p>○中学校研究授業及び授業研究会（阿波中学校2年）</p> <p>指導助言：鳴門教育大学教授</p> <p>広島大学准教授</p> <p>○先進地域・先進校への視察（1名）</p> <p>全国英語教育研究大会（大分）</p> <p>○小学校研究授業及び授業研究会（林小学校5年松組）</p> <p>指導助言：県教委指導主事</p> <p>○先進地域・先進校への視察（11名）</p> <p>鳴門市立林崎小学校</p>  | 第2回運営指導委員会 |
| 12月 | <p>○中学校区英語推進委員会</p> <p>○小学校研究授業及び授業研究会（久勝小学校3年）</p> <p>指導助言：四国大学准教授</p> <p>○林小学校校内研修（授業力向上）</p> <p>講師：徳島市立福島小学校指導教諭</p> <p>○小学校研究授業及び授業研究会（林小学校4年松組）</p> <p>○外部テスト実施（小中学校）</p> <p>○先進地域・先進校への視察（1名）</p> <p>京都市立 紫野高等学校</p> <p>○英語教育推進リーダー研修実習（4回目3時間）</p> <p>○アンケートによる意識調査</p> <p>（対象：小学校3年生～中学1年生）</p> <p>○アンケートによる意識調査（2回目）（対象：小学校教員）</p> |            |

|   |  |            |
|---|--|------------|
| 1月  | ○中学校区英語推進委員会<br>○強化地域拠点事業連携協議会   |            |
| 2月  | ○中学校区英語推進委員会<br>○阿波市中学校研究授業及び授業研究会<br>○阿波西高等学校英語研究授業及び授業研究会<br>指導助言：鳴門教育大学准教授<br>○第2回阿波市英語活動・英語教育推進委員会 | 第3回運営指導委員会 |
| 3月  | ○中学校区英語推進委員会<br>研究の成果・課題の検証と次年度の計画   |            |
| <b>【その他の取組】※あれば記入</b><br>ALT及び英語講師授業力英語力研修会（適宜） |  |            |